

三輪野江地区の今後の  
在り方について

中嶋 通治

**問** ①スマートインターが本年4月より大型車乗り入れが可能となったが今後のフルインター化の実現に向けての取り組みと近隣市との調整は。②地区の開発についてどの様になっているのか、具体的な取り組み、進捗状況は。③農振地域の見直しは喫緊の課題、進捗状況、住民との懇談状況は。

**答** ①国交省関東地方整備局、県、東日本高速道路、近隣自治体で構成される準備会の一員として参加している。アクセス道路となる常磐道北側側道の市道と三輪野江バイパスとの交差点部の測量を実施し今後の改修の必要性を検討する。②庁内連携会議を設置し、農地保全エリア、農業拠点検討エリア、将来開発検討エリアについて具体化に向けた検討をしている。進捗状況は、保全エリアは耕作意向の確認、拠点エリアは農業パーク基本構想の素案を作成。③昨年9月に農地保全エリアの地権者を対象に訪問し意見聴取を行った。「後継者問題が深刻化している」「市が何か事業を行う場合は協力したい」「農業機械の購入や農地保全支援策を行ってほしい」などの意見があった。地区説明会を開催予定であったが延期した。

答えて市長！  
一般質問

今定例会では、新型コロナウイルス感染症に関する対応として、市執行部の業務への影響を考慮し、本会議での一般質問を取りやめ、書面での通告・答弁となりました。

通告された15名の一般質問について、書面での回答に基づき、主な内容を質問者が要約してお知らせします。

市内事業者と協定締結へ  
コロナ対策で多くの避難所

降旗 聡

**問** ①感染症対策を含めた避難所開設マニュアル、避難所増設について。②屋上駐車場を設置している事業者との災害協定締結の現状と、今後の方向性について。③要支援者の救援体制の構築について。

**答** ①過密状態の防止や衛生・健康管理の徹底などを示した「避難所開設・運営における新型コロナウイルス対策マニュアル」を5月に策定し、通常より多くの避難所を開設することについても定めた。②現在、洪水等の災害において一時避難所としての施設利用に関する協定を1事業者と締結している。また、1事業者と協定締結にむけ協議中。今後も、市民が避難することが可能である事業者と協議を進めていく。③自治会や民生委員・児童委員など地域の方たちが名簿を活用して、平常時から要支援者の情報を把握し、災害時に役立てることを目的とした「吉川市災害時避難行動要支援者避難支援計画」を3月に策定。より実効性の高いものとするため、避難支援者向けにマニュアルを整備し、引き続き地域における避難支援体制の構築に努めたい。

新型コロナウイルス感染症対策の  
課題と取り組みについて

戸田 馨

**問** 埼玉県、保健所との情報共有・連携が必要と考える。現在の課題、今後の連携についての見解は。

**答** 感染症拡大防止については、正しい情報の速やかな発信により、市民が適切な行動をとることが重要。現在も県や保健所と連携し情報共有に努めているが、県と市町村が共同で取り組む体制構築も課題と捉える。更なる連携強化のため、埼玉県知事に対し課題解決の仕組みづくりを提案、更に埼玉県東部地区振興センター、草加保健所と意見交換の結果、県内4カ所の保健所に連絡調整を担う職員を配置し、他都道府県との情報連携についても検討すると連絡をいただいた。

**問** 市民生活に等しく影響がある水道代に減免、もしくは支払い猶予の設定を求めるが、見解は。

**答** 一時的に水道料金の支払いが困難になった方への支援として4月検針分から支払いの猶予を行っている。今後も生活困窮者に対して重点的に支援を行うとともに、感染症対策の予防として手洗い・うがいが重要なことから、安全安心な水道水の供給に努める。